

日本における高齢者の社会的孤立に対する 有償ボランティアの可能性

SHUM Kai Ho

本論文は、日本における高齢者の社会的孤立に対する有償ボランティアの可能性を明らかにする目的としたものである。本論文の目的を達成するため、先行文献調査及び質的調査を行う。論文の構成については、まず、第 1 章は研究背景、第 2 章は先行文献のレビュー。次に、第 3 章は研究調査、第 4 章は結論と今後の課題である。

第 1 章 研究背景

本章では、まず、本論文のテーマと関わる日本における社会背景を紹介し、高齢者の社会的孤立と有償ボランティアという研究キーワードを取り上げる理由と解明する内容を説明する。そして、本論文は、高齢者の社会的孤立と有償ボランティアについては、何を明らかにしたいのか説明を行う。最後に、どのような研究方法で研究および論文の目的を達成するのか説明する。

第 2 章 先行文献のレビュー

本章では、これまでの先行文献で本論文のテーマと関わる文脈を抽出し、重要な内容をまとめて紹介する。

第 1 節では、まず、社会的孤立の定義と日本の高齢者が社会的孤立に至る理由を紹介する。次に、近年の介護保険法改定によって、高齢者福祉分野で活躍されている有償ボランティアが助け合い活動として期待されてきた背景を紹介する。そして、高齢者の社会参加が社会的孤立の防止との関連については、国内外の先行文献に基づいて紹介する。最後に、社会と政策の動向から、高齢者が地域の担い手として期待されてきた背景について紹介する。

第 2 節では、まず、日本におけるボランティアに関する意識と活動形態の変容についてまとめる。そして、日本における有償ボランティアの定義、有償仕組みの違い、有償の意義など説明を行う。最後に有償ボランティア活動のモデルとも言える「住民参加型在宅福祉サービス」の経緯、

特徴、実態についても言及する。

第3節では、アメリカにおける有償ボランティアの事例及び日本と海外における就労意識についての比較を通じて、高齢者の社会的孤立という問題に対する有償ボランティアの有用性を検討する。

第3章 研究調査

本章では、研究及び論文の目的を達成するために実施した研究調査の内容と調査結果の分析を述べる。まず、調査対象団体及び対象の決め方を説明する。そして、事前調査、半構造化聞き取り調査、フィールドワークという3つの調査方法の内容と問題意識を述べる。調査結果の部分では、調査結果の分析の部分に入る前に、主に事前調査のデータに基づいて調査対象団体の背景、活動の実態などを紹介する。調査結果の整理及び分析の部分では、聞き取り調査とフィールドワークのデータを精読した上で、本論文のテーマと関わるデータを抽出して6つの点を整理する。そして、整理した結果を考察しながら、分析を行う。

第4章 結論と今後の課題

本章では、本論文の結論と有償ボランティアにおける今後の課題を述べる。

第1節では、先行文献調査で論じられた内容と調査結果の分析についての内容に基づいて、高齢者の有償ボランティア活動への参加は、社会的孤立の防止に対して有用であり、いくつかの可能性があることと同時に、限界があることにも言及する。

第2節では、有償ボランティアにおける今後の課題とその重要性を述べる。先行研究と調査結果から、高齢者が地域の担い手として期待されてきたことを述べる。しかし、政策の動向及び日本における様々な意識(就労、余暇、ボランティア、ジェンダーなど)によって、現時点では、高齢者の多様なニーズに対し、有償ボランティアによる助け合いの機能は十分に発揮されていないことを述べる。さらに、本論文のテーマに関しては、今後の課題として期待されている内容とその理由を説明する。

最後に、本論文の限界を述べた上で、今後の筆者の研究課題についても述べる。本論文を通じて、高齢者の社会的孤立に対して、日本だけではなく海外でも有償ボランティアに取り組んでいることが分かった。そのため、今後、筆者の研究課題にとっては、高齢者の社会的孤立と有償ボランティアについて、国際的な比較を行う必要があることも言及する。